

令和3年度 【第12期】第2回長野県生涯学習審議会 発言要旨

日 時： 令和4年2月4日（金）10時00分～12時00分

場 所： オンライン開催

出席委員： 西 一夫（会長）、秋葉 芳江、泉山 莉奈、伊藤 美知子、小池 玲子、
関 正浩、千野 泰聖、長峰 夏樹、樋口 正幸、深野 香代子、堀内 絹予、
松田 晶弘、毛受 芳高、森田 舞、柳澤 礼子（15名）

1 開会

○事務局（春原企画幹兼課長補佐）

2 原山教育長挨拶

皆さん、おはようございます。本日はご多忙の中、本会にご参加いただきましてありがとうございます。そして、日頃、長野県教育に対してご理解、ご支援をいただいていることに重ねて感謝を申し上げます。そして、日頃、長野県教育に対してご理解、ご支援をいただいていることに重ねて感謝を申し上げます。現在、長野県にまん延防止等重点措置が適用されておりますため、第1回に引き続きオンライン会議とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

長野県教育委員会では、令和5年度を初年度とする次期長野県教育振興基本計画の策定を進めております。「これからの長野県教育を考える有識者懇談会」を開催し、学校教育を中心に本県がめざす学びの姿を議論していただいているところです。

この生涯学習審議会では、学校教育の枠を超えて、広く社会の変化を踏まえた生涯学習・社会教育の振興の基本的な方向性や具体的な施策についてご提言をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

第1回審議会では、委員の皆様から幅広い視点で様々なご意見をいただきました。今回これらの課題についてさらに議論を深めていただき、これからの生涯学習分野でどのような学びが求められているのか、どのように実現していくのかについてもご意見をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

〈諸連絡〉

○事務局（春原企画幹兼課長補佐）

【本審議会運営についての説明】

【審議会資料の公開、審議会の録音の許可】

〈会長あいさつ〉

○西会長

皆様、おはようございます。信州大学の西でございます。本日もよろしくお願ひいたします。今回は、論点の抽出ということで課題の掘り下げをし、具体的な方向性の最初の土台作りになろうかと思ひます。本来であれば対面で議論したいところですが、このような状況下ですので、オンライン形式になります。それぞれのお立場からのご意見をいただき、方向性に向けての議論をお願ひしたいと思ひます。

3 会議事項

(1) 審議の進め方

○事務局（山本課長補佐兼生涯学習係長）

【第12期 長野県生涯学習審議会のスケジュールについての説明…資料1】

【第12期 第1回生涯学習審議会意見要旨についての説明 …資料2】

【審議の進め方についての説明】

○西会長

事務局から説明がありましたように第1回のそれぞれの意見を踏まえてのとりまとめ、方向性のグルーピング、6点の観点にまとめていただいております。それらを基に、2つのテーマに分かれて議論していただきたいと思ひますがいかがでしょうか。補足させていただくと、Aグループは比較的時間軸に沿ったライフステージをどう繋いでいけるのか、Bグループは学校や地域、公民館、コミュニティスクールといった面的な部分で考えていただくとイメージしやすいのかなと思ひます。テーマにこだわった議論というよりは、2つのテーマは必ず関わってくるところがあると思ひますので、それらを踏まえて全体共有の際にご意見をいただければと思ひます。是非、活発にそれぞれのお立場で忌憚のないところでご意見を出していただき、方向性を示せばと思ひます。

(2) 意見交換（グループ討議）

【Aグループ】

テーマ「生涯学び続けるために何が必要か」

○久保文化財・生涯学習課長

第1回目では、若者、二極化、家庭環境で学びが困難な方、最新学習歴等がキーワードとして出てきております。更に今回は一歩進んで、重点的に取り組むべき課題、地域や行政は何が出来るのか、政策の方向性についてご意見いただきたいと思ひます。

○関委員

大前提としては本人の学ぶ意欲…なぜ学ばなければならないか、何のために学ぶのかという本人の動機付けが必要だと思えます。学ぶということは楽しいこと、学びによって人と繋がることは楽しいということを学校教育では身につけさせていきたいと考えています。コミュニケーションや対話というような人と繋がる力を身につけることが、生涯学び続けていくための必須の条件ではないかと考えています。例えば本校が取り組んでいる地域協働の学びは、高校生がやりたいと考えていることに対して、周りが助けてくれる、自分を支えてくれる人が周りにいるという認識を持つために非常に重要な経験の場だと考えています。学びの意欲をどうつけていくか。自主的に学ぶ時間・機会をどう確保できるのか。それぞれの人が必要としている学びをどう提供していくのか。いつでもどこでも学べる場の整備・提供をしていく必要があると思えます。学びに向かう人が増えれば増えるほど結果として社会は安定するわけで、そのための必要経費として費用負担についても自治体や企業等が考えていく必要があるのではないかと考えています。

○千野委員

学べる人間関係を地域の中でつくるのが重要だと考えています。例えば、子どもたちが高齢者の方と関わる機会、若い人たちが高齢者の方から学ぶ機会、高齢者の方が若者から学ぶというような互いに学びあえる機会や場を作ることで、地域が学べる場であることを周知出来れば生涯学び続けることが出来るのではないかと考えています。そのような中で学校でも地域で学べるのが体感できれば、卒業後も地域での学びを続けることが出来るのではないかと考えています。

○森田委員

私は出会うことと学ぶことで人生が変わると体感し、出会いと学びの場を提供する活動をしています。子育てをしているお母さんたちが学ぶことで、子育てが楽になったり気持ちが楽になり、再び社会に出たときに学びへのハードルが下がるのではないかと考えています。人と繋がる出会いは人生を変えると考えています。親が学ぶ姿を見て、子どもも学ぶことが自然だと考えるようになります。大人になっても学び続けるということが自然であるという文化を長野県に作れたら良いと思います。長野県の子どもの自殺率は残念ながら高い状態です。子ども達がSOSを出せる場がないということが課題になっています。学校や会社以外に人を頼る場として、学びの仲間を作ることは人の命を助けることもできることから、この取組を続けてほしいと思っています。

○毛受委員

学びの主体としての自分づくりをどうやって作るのか、この視点が重要であり、高校までの教育…地域にいるまでの間に、どうやったら学びの主体になれるのか、自分磨きを続けると自分の未来

にはちゃんと明日がやってくるんだ、学びと自分の価値をハッと気づく瞬間をどう作るかということに重要性があり、それを感じるかどうかで二極化のスタートが決まってくると思っています。地域にいる18歳までの間に、地域と連携した学びをアセスメントすることが重要です。生涯学習は様々な学びを包括しています。リカレント、リスクリングと言われていますが、変化を求められた時に対応できる学びも、職場教育というだけでなく生涯学び続ける学びとして繋がなければならないと思います。生きていくために必要な学び、出来るだけ安価で提供できる学び、地域課題を解決する学び、話し合わなければ課題解決できないことは生涯学習がやらなければいけない学びです。生涯学習はどうしても狭い領域に入ってしまうますが、生涯学び続けることは一番重要な学びだと考えております。生涯学習は地域に学びを展開していく存在として、他部局に渡っている様々な学びをマッピングし、不足している部分を提言していき、それによって生涯学び続けることが地域の力になるのだと、広げていく存在になっていけばよいと思います。

○深野委員

何のために学ぶのかという目的と意欲がとても重要だと思っています。学ぶ理由を納得した上で学ばないと時間やお金を費やしても効果がないため、動機付け、必要に思えることが大変重要だと認識しています。いくら周りが投げかけても、最終的には本人次第というところになります。森田委員がおっしゃっていたように、親が学ぶという姿を見ると、子どもも違和感なく学ぶということに同意見で、とても大切なことだと思います。社会で考える前に、まずコミュニティの基本となる家庭の中で、子どもにとって親の学ぶ姿を見せることがとても重要だと思っています。子どもたちが不安や迷いが生じた際、それを解消できる学びの場や活動は必要です。皆さんの意見と同様に、意欲・家庭が基本で大事であると感じています。

○松田委員

学ぶ意欲は自分の興味によって変わってくると感じています。達成感や満足感などからまた、新たな学びに繋がっています。それぞれの団体で行っている学びが、広く多くの人に周知されることで繋がっていくと思います。行政や社会福祉協議会など、地域によって取り組み方が違い、人材不足などから格差があるように感じます。そのようなところを行政の支援があればと思います。おとなから子どもへ、子どもからおとなへ繋がる学びもあり、学びの連鎖が出来ていくと感じます。学びで得られる達成感・充実感を感じることが出来れば、学ぶ姿勢はできていくと思います。そのためには公民館の地道な活動、高齢者の経験や技術を活用し、男性のシニア層や若者が自分も何かを担うという意識をもってもらえれば参加してくれるのではないかと思います。

○秋葉委員

私からは三点申し上げます。一点目は「生涯学習」の概念を変えるタイミングにあると思います。人生が3ステージの時代ではなくなっていることを大前提にして、人生についての学びを考え直す必要があると考えています。「ずっと学ぶ」ということがどうして必要なのかと言えば、社会の変化についていくために学ぶ必要があるのです。社会の変化が非常に早く、予測不能な VUCA の時代についていくために自分をアップデートする。突き詰めると孤立を防ぐことになると思います。これは職業訓練と思われがちですが、職業訓練より前にする必要があるのです。具体的には行政・地域で何が出来るのか、生涯学習の考え方を変えるという発信がまず大切だと思います。

二点目は学びのチャンスを広げるということです。学びは特別な支援、特別な人、特別な時間、特別な場所ではなく、どこにでもあるようにしなければならないと思います。

三点目はそもそも答えがない問いを考えることが学びということです。答えがない問いを考え続けること、問いを立てることが非常に大切だと思います。それを随所に埋め込むことが必要になってきており、具体的な支援として、若者を先生役にして学ぶということを是非やってほしいと思います。そういう支援をたくさん作りたいのです。例えば公民館の運営を18歳未満に任せて運営させてみるということを是非やってみてほしいのです。若者に学ぶ、若者を先生にしてみんなで学ぶ。答えのない問いをみんなで一生懸命考え続けるという機会をたくさん作るということを具体的な支援策として挙げさせていただきます。

○久保文化財・生涯学習課長

他の委員への質問等あればお願いします。いかがでしょうか。

○毛受委員

生涯学習が果たす役割が大きく変わってきています。しかしながら、生涯学習は「その他の役割」に落とされてしまい、とても問題だと感じています。大人も分からない世の中になってしまっているため、みんなで学んで前向きに考えて、頑張って変えていかなければならないと感じます。その時に若者発信で学びが出てくるのがいいと思います。生涯学習の拠点である公民館が、地域の中で様々な人たちがお互い教え合うような取組が出来ると良いと思います。

○関委員

高校では探究学習に力を入れて取り組んでいます。それ故、高校生は話す材料、問題意識をたくさん持っています。そのような若者の考えを発表できる場を社会に多く作っていただきたいと思います。そして、それは幅広い年齢層の地域の方が参加でき、共有できる場が良いと考えています。それがさらにいろいろな活動に発展していく機会になります。高校としても学校の学びをどうやっ

て外に発信していくかということが大切だと思っています。

○森田委員

キャリア教育は受けてよかった、参加してよかったという経験が非常に重要です。そのため1回目が非常に重要だと考えています。そして、それをどう知ってもらうか、参加してもらうか議論していく必要があると思いました。場は作れるが、1回目の一步を作ることが難しいのです。知ってもらうという点で、行政には力を入れてほしいと思います。参加しやすい作り方が必要であり、知ってもらう、どうやって参加してもらうのか、リピートしてもらうか…みんなで考えていけたらいいなと思いました。

○久保文化財・生涯学習課長

先程から若者発信の学びという意見が出ていますが、それに対して千野委員はいかがでしょうか。

○千野委員

若者から地域の方へ発信するのは非常に良いと思いますが、出来るのであれば、顔の見える相手、知っている相手に伝えていくことの方が取り組みやすく、実現しやすいと思います。そのような場を作っていくためには、地域の中の自分たちの周りの人たちに学びを発信していくというやり方は若者の視点からしても取り組みやすいのではないかと感じました。

○久保文化財・生涯学習課長

今までのお話をまとめさせていただきますと、学び続けるためには社会に出るまでの18歳までの学びが非常に重要であると、それは学校だけではなく学校と地域が繋がることによって形成されることによってできるのではないかと、というお話が出たかと思います。学びに対する姿勢の二極化という話が課題として出ている中で、学びに向かわない人へのアプローチの方法があればご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○毛受委員

18歳までというのは、地域がアプローチしやすいという意味でお話をさせていただきました。18歳以降は、大学等での学びか、職場での学びかに分かれてきます。様々な施策が大学での教育に向けられており、職場での学びはOJTになりがちです。地域の中で仕事を持って、学びをするということを生涯学習課題としていきたい。リカレント、リスキリングに繋がる前の話になってくるとありますが、そこを充実される必要があると思います。

○久保文化財・生涯学習課長

高等教育に進まない若者たちに「生きる学び」が手薄ではないかというお話だったかと思いますが、それについていかがでしょうか。

○秋葉委員

私も同じように問題意識を持っています。18～24歳くらいの層、働き始めて10年くらい経った層がフォローできていないと実感しています。企業と高等教育機関が一緒に取り組んでいけるのかなとイメージを持っています。そこを行政にサポートしていただくというナリカレント、リスキリング等のアプローチが必要かなと思います。

○深野委員

実際に企業として、自分自身で考え、キャリアビジョンを考えさせる場を提供して社員教育を実践してきました。「企業は人づくりだ」という私の基本的な考え方に基づいています。誰かに敷いてもらったレールの上を進むのではなく、出勤さえしていればお金をもらえるということでもなく、意欲を高め、しっかり自分づくりをしてほしいと。そのためには自分自身で考えるしかない、実践するしかないということで積み重ねてきています。

しかし、これは企業内では出来ませんが、地域での実現は難しいと思います。地域で実現するには地域や行政、教育委員会と連携しながら、地域全体で取り組んだモデルケースを参考にそれぞれの今後に向けてのやり方を考えていくとよいと思います。上伊那地域での事例を研究することによって実際にみなさんに参考にしていただけると道筋が出来るのかなと感じました。

【Bグループ】

テーマ「持続可能な地域・社会づくりのために、どのような学びが必要か」

○後藤主任指導主事

前は、災害や人口減少といった地域課題や公民館等の地域資源、学校や地域との連携協働などがキーワードとして出てきております。今回は更に踏み込んだところで、重点的に取り組むべき課題や地域や行政は何が出来るかというようなご意見をいただきたいと思います。

○樋口委員

集落はまさに持続をテーマに活動しています。集落を300年後につなげるということ、日々考えています。その時々々の地域課題を明確にし、地域資源を知り、活用することが大切だと思います。

○長峰委員

福祉分野も「日々の課題に対応するだけでなく」、未来に目を向けて「学ぶ必要」を強く感じています。フューチャーデザインのように「未来に向けて」をもっと強調したり、何年後かを明確にすることも大切ではないかと思います。学びの場の中で、福祉分野がどう役割を果たしていくのが課題です。学校と地域の連携や、開かれた公民館、ボランティアセンター、それぞれの制度の枠組みに縛られずに自由につながり、学びと地域づくりを実践していく場を増やしていきたいと思えます。

○小池委員

ひとづくり、まちづくり、繋がりづくりのような地域課題はハードルを高くしすぎると一般住民には荷が重いと感ずることがあるのではないのでしょうか。誰もが不安に感ずる災害は、小さなお子さんからおとなまで、みんなが関心を持って考えています。防災ネットワークを立ち上げ、それをアイテムに地域づくりや人づくりができないか考えているところです。みなさんが我が事のように考えていくことで学びの輪が広がり、地域課題の拾い出しや学び合い、地域づくりや人づくりに繋がっていくと思えます。

○泉山委員

持続可能な地域づくりとして、地域内のつながりの促進が必要だと考えています。特に女性は生涯学習や地域のコミュニティに関わる機会が少ないのではないかと感ずます。災害などで必要になる地域内の繋がりをしっかり作るためにも、誰もが気軽に参加できる地域のコミュニティや生涯学習の場づくりが必要ではないかと考えています。

○伊藤委員

コロナ禍で、PTA活動は集まって何かをするということが出来ていません。オンライン、YouTube を使いSDGs やギガスクール等を学ぶ機会を設けているという状況です。学校行事が開催できていないため、保護者同士の関わり、学校との関わりがなく、子どもたちはこの数年地域の人との交流が全くありません。子どもたちが地域との交流から学ぶとことがなくなりました。このような時代だからこそ、今までと違ったやり方を模索する時期なのかとも感ずるため、皆さんと一緒に考えていくことが出来ればと思えます。

○堀内委員

現在のコロナの感染レベルではいろいろな活動が止まってしまっている状況です。しかし、4月頃と比較すると、どの学校もオンライン授業や1人1端末を使つての自宅学習ということが進んで

いると感じます。本校では地域の方々に支えていただいているコミュニティスクールがあります。常々感じているところですが、この活動は子どもたちと地域の方たち、双方にメリットがあることで持続可能な取組となっています。地域の方たちは子どもと触れ合うことで生きがいや活力をもらい、子どもたちは家族以外の様々な年齢の方たちとのコミュニケーションでたくさんのことを学んでいます。地域と子どもたち、双方にメリットのある活動がコロナ終息後には更に進められればと考えています。しかし、コミュニティスクールは高齢化が進んでいることが課題です。若い人材、若い世代が、学校と共に進んでいけるようにしなければ持続可能は止まってしまうため、今後検討していかなければならないと思っています。

○柳澤委員

公民館の果たす役割は大きいと感じています。佐久市でアンケートを実施しましたが、公民館の課題としてはまず、若者や男性の利用が少なく、一部の活発な方の利用で受講者に偏りがあることが挙げられています。公民館で支援している地域の学習グループが高齢化やコロナで消滅してしまっていることも課題の一つです。公民館は仲間づくりの場、地域の課題解決に繋げていく場であればいいですが、実際にそれが出来ているのか考えなければいけません。現在はリモートで講座を開催していますが、公民館は集って活動するのが基本です。今後、自治公民館への支援、学校との連携についても取り組んでいきたいと思っています。

○後藤主任指導主事

他の委員への質問等あればお願いします。いかがでしょうか。

○長峰委員

樋口委員の300年先を見越した取組について聞かせてください。

○樋口委員

300年前にこの集落で暮らせなくなったという歴史がありますが、みんなで一つのことに取り組むことによって300年後の私たちは今ここで暮らすことが出来ています。10年前の地震でここでは暮らせないと思いましたが、今何かをみんなで協力しながら暮らしを取り戻すことが出来れば300年後の人たちに繋げていくことができるのではないかとということで300年を目標に取り組んできました。この目標は、今生きている人たちは当然見ることできない世界ですが、見えない世界に繋げる大きな夢を持った時にみんなの気持ちが変わりました。大きな夢を持つことは大事であり、面白くないとダメだなと思います。学びで一番大切なのはワクワクと楽しさです。面白さを求めていけばそこに多くのみなさんが参加してくれると思い、いろいろな取組を考えています。

○長峰委員

未来を見る、大きな先を見据えて見るということは大事だなと思いました。福祉の分野でも50～60年先の未来を、フューチャーデザインを考えることで、現在の課題にも前向きになれると実感しています。教育分野では、未来に向けたもっと大きなデザインを試みていただきたいと思います。

○後藤主任指導主事

学びでみんなが共有できるもの、課題に思えるものとしてはどうでしょうか。

○小池委員

地域には様々な方が住んでいらっしゃると思いますが、元々生きにくいと感じている方がこのコロナ禍で見えるようになってきた部分があると感じます。そのような方々は災害で取り残されてしまうことがあります。防災を学ぶということは、子どもも大人もそこで暮らす人たちの課題です。社会教育の力として生まれた時から心根、心を育てることが非常に大事だと思います。人を非難する、批判する人が多くいますが、どうしてそうなってしまったのかと考えた時に、幼い頃から多くの人に生かされていると感じる経験や体験をしていることが重要だと思いました。地域の皆さんが不安に感じることや、自由に話せる場として、公民館は非常に大事な場だと思います。

○後藤主任指導主事

地域の方が学校を使ったコミュニティについてのお話を堀内委員お願いします。

○堀内委員

小さい頃からの育ちが大事という話がありましたが、1～3歳くらいの頃に温かい家庭内の中で自己肯定感を育てることが大切で、それがその後の成長に大きく影響すると思います。家庭教育といっても事情がある方も多いかと思いますが、一人で悩んで、一人で背負わないでというところで地域や学校、教員がいます。核家族化が進んでいますが、神科小学校のコミュニティスクールでは地域のおじいちゃんとおばあちゃんと一緒に空間にいたという思い出が子どもたちの次へのステップにしてもらえればという話を聞いています。だからこそ、高齢者の方々が卒業してしまった後に、次に繋がる新しい地域の方々に参加していただき、新しい風が入ってくる、持続していけるような形になっていければいいなと思っています。

○後藤主任指導主事

他にご意見があればいかがでしょうか。

○泉山委員

小池委員の子どもの頃の経験や災害といったお話にとっても共感しました。私自身、市の防災を学ぶ有志の団体に所属していますが、そこに参加されている方は非常に限られています。もっといろいろな人来てほしいと感じます。それぞれの立場や持っている力が違うため、みんなが興味を持って学びを深められればいいなと思います。学生の発表で個人の防災よりも地域の防災の方が効果があると発表していました。みんなに興味を持ってもらう機会が増えるといいと思います。幼いころからの経験が大切という話がありましたが、私自身も小さい頃からのガールスカウトの経験が非常に大きいと感じています。しかし、経験といってもお金がかかるものも多いため、お金がかからずに出来る経験の場が増えていくといいなと思います。

○柳澤委員

佐久市常和地区でも台風 19 号で大きな被害がありました。この地域の復興に向けた活動で特筆すべきは、復興に関する活動だけでなく、住民が一体となって地域の良さを再発見する学習や楽しいイベントを開催していることです。また、「まちづくりだより」を発行し、体験談や復興の状況、ふるさとの良さ等多面的なものを掲載していることも地域がまとまることに繋がったと感じました。

○伊藤委員

堀内委員へ質問ですが、ボランティアの方たちをどのように集めていらっしゃるのでしょうか。子どもが学校を卒業してしまうと関わりがなくなってしまい、情報がなくなってしまうという話も聞きますが。

○堀内委員

多くの学校では、年度末にボランティアの募集を地域、保護者に向けて発信しています。本校のお助けつと隊の方々も地域で活躍している人が多いため、その皆さんが知り合いに声掛けをしてくださっています。お子さんが卒業してから学校の情報が入ってこないということですが、学校の情報は民生定例会やHPでは広報してはいますが、今後の課題の一つだと思います。

○小池委員

いろいろな子どもがいます。長い間、子どもを見ていますと、小学生から中学生、高校生、大学生、社会人までずっと関係が繋がっています。特に若者は他者から「ありがとう」を言われる経験が少ないと思います。そのような経験の積み重ねが大事だと感じます。小学校～大学生、社会人が関わるようなプログラム作りや、ありがとう経験をさせてあげることがとても大切だと思います。

た。

○長峰委員

防災のテーマで、高校生や大学生、企業で、災害に備えた社会貢献、ボランティア参加、そこに学びを付け加えて様々な取組に繋げていきたいと思いました。

○樋口委員

ハードルが高いと参加者がいないというお話がありましたが、確かにその通りだと思っています。身近なところを見つめ直すことがとても大事で、身近なところを知り、教えてもらうということが面白さにつながり、そこに住む価値観に繋がっていくと思います。子どもを主役にする方が多くの人に浸透し、面白く感じることもあります。また、地域のことをいかに共有していけるか、情報を共有することで足並みがそろうこともあります。災害についても暮らしの中で教えていくことで関心を持つきっかけになるとと思います。

(3) 全体意見交換

○西会長

非常に短い時間ではありましたが、それぞれグループ、活発に議論していただいたように思います。各グループの発言を共有してまいりたいと思います。事務局からご報告をお願いします。

○各グループまとめ発表

【Aグループ 久保文化財・生涯学習課長】

【Bグループ 後藤主任指導主事】

○西会長

ありがとうございます。それぞれのテーマで議論していただきましたが、重なるようなご意見が出てきたように感じます。今の報告を聞きながら率直な感想、ご意見、補足の説明等があればお願いします。例えば、Bグループで、子どもが学校を卒業してしまうと、学校との関わりが疎遠になってしまうというお話がありましたが、森田委員はいかがでしょう。

○森田委員

学校との関わり合いは学校格差があるように感じます。いろいろな活動がある中、どうやって知ってもらえるか、参加してもらおうかということを考えていきたいと思っています。

○西会長

今のご意見から、それぞれのお立場でいかがでしょうか。

○毛受委員

Bグループの議論の中で、居場所・繋がりというような地域と繋がる公民館活動という話がありましたが、Aグループでも地域と繋がる学びの話が出ました。学びをサポートしてくれる地域、地域と繋がる学びが生涯にわたって必要という意識を持たないといけないと感じます。生きていくための様々な学び、地域で支え合ってやるのが大事だと感じます。小学生くらいまでは公民館や地域と接点があるが、中高生は地域との繋がりが薄くなってしまいます。子どもたちが自分たちで作ると人が集まります。そのようなことができると素敵だなと思いました。

○西会長

Aグループではコミュニティスクールについての話題が出ていたと思いますが、地域の方が学校支援のために入るだけではなく、自分たちが達成感・充実感を持てるということも大切です。与えるだけではなく、自分たちも学べるという取組のアイデアが出てくるといいと思います。そのようなことが公民館活動への連携に繋がっていくことが大切かなとも思います。そのようなあたりで、堀内委員、ご意見をいただけますでしょうか。

○堀内委員

地域の方と学校、子ども達の双方にメリットがあることが持続可能な取組になるのかなと常々考えています。子どもたちは地域のお年寄りと触れ合う中で昔の遊び等を習い、お年寄りは活発な子どもたちから元気をもろう、次への活力をもろう…双方にとって生きがいとなっています。

○西会長

ありがとうございます。今までのご意見の中でいかがでしょうか。

○小池委員

Aグループで生涯学習の概念を変える必要があるというご意見がありましたが、地域の方々には生涯学習は自己研鑽・自己実現のためにあるものというようにカルチャー的な感覚で捉えられ、生涯学習が課題解決のためにあるということがなかなか浸透していないように感じます。生涯学習という言葉が地域の中で使われることがまずない、そこが課題だと思います。「生涯学習」という概念が大切であること、県民のみなさんに理解してもらうにはどう言葉で語ったらいいのかというところを充実させてほしいと思います。

○西会長

どうしても生涯学習というと個の学び、地域の中での学びということになってしまいがちですが、課題解決ということも生涯学習では大切ではないかという意見がありました。Aグループでは地域協働での学習、生徒たちが地域に入って学ぶというお話があったかと思いますが、生徒たちは地域で何を得ているのか、地域側は何を得られているのか、関委員、いかがでしょうか。

○関委員

生徒が地域に出て何を学んでいるのかということ、多世代との関わりが生徒にはプラスになっていると思います。自分が受け入れられている、認められている安心感と、自他を尊重しようとする心が育っていると感じます。多世代という縦の繋がりだけではなく、幅の広い横の繋がりも地域協働の中で作られていると感じます。「学び」は基本的には「対話」で繋がっていると思っています。お互いに発信し合い、受け止め合いながら、新しいものをそこから作り出していくというような、対話からの学びが地域協働の形の中にあり、価値のある学びをさせていただいていると思っています。

○西会長

若者といった時に、高等教育に進まない層、進学する層、高等教育を終えた層の学びについてどういったものをイメージするのか、秋葉委員いかがでしょうか。

○秋葉委員

世の中の3ステージモデルが崩れている中で、「生涯学習」の考え方が変わってきています。「生涯学習」の根幹は変える必要はありませんが、我々の受け止め側がズレてきているように感じます。高校を卒業したら、学ぶ場がないという考え方は3ステージの考え方。いつの世代でも、いつでも、どこでも、誰とでも学べるというのが生涯学習のコンセプトだと思います。具体的にどのように実現させるか、行政・民間・教育機関が舵を切ることが必要で、具体的なアクションが出来ないか考えているところです。

○西会長

それぞれのグループの話を聞かせていただいた上で、情報として共有したいところを補足させていただきます。Bグループで、災害をきっかけにコミュニティの結束ができてきているというようなご意見がありました。自然災害はマイナスに捉えられる反面、自分たちの地域を見直すきっかけになるという側面もあると思います。防災、地域、キャリアということを横串にして考える発想もあっていいのではないのでしょうか。これは目の前で見える視点の話になります。

もう一つはBグループで出てきたその地域の 300 年先を見る…自分たちには見えない先を想像しながら見ていくという発想も必要になってくるのではないのでしょうか。生涯学習という概念もステージとして捉えていくのではなく、様々な視点で考えることが必要になってくると思います。

本日は分かれて議論していただきましたが、どこかで話が交わっているなと感じました。第三回以降の審議については事務局を中心に論点整理をし、若い方への意見聴取を行い、それらを反映できるようにしたいと思いますので、委員の方々にはご協力をお願いします。

長時間にわたっての御議論、ありがとうございました。

(4) その他

○事務局（後藤主任指導主事）

【今後の予定についての説明】

4 閉会

○事務局（春原企画幹兼課長補佐）